

情緒不安定な生徒を指導して

中 沢 正 世*

I はじめに

おもちゃ好きのMは手製のピストルを美術担当教師にとりあげられた。本人の言をかりれば「かっとなつて、腹いせに」女生徒をうるしの枝をもって追いかけた。追いかけた方も、追いかけられた方も、うるしにかぶれ、翌日は病院通いという始末である。そればかりか翌日の授業まで全然調子がくるってしまう。

数学の時間に、 $x > y$, $a > b$ ならば、 $x - a > y - b$ や、 $x - b > y - a$ の真偽を例をあげての検証中、他の生徒に指名すると、奇声をあげてさわぎ出す。「もう一度、かけてください。」と、指名すれば、「 $x = 39862$, $y = 24511$, $a = 8975$, $b = 4676$ 」これ一つ位ならばともかく他に複雑な小数やら分数やら、数例よみあげる。かかる例は枚挙にいとまないといっても過言ではない。全く自分を中心に地球が動いていると錯覚しているかとすら思われる生徒である。

かかる生徒を指導していく場合、お説教やしっ声、忠告では反抗心を増長させるか泣き出させるばかりである。相当の長期間を要するが「自ら成長を願う生徒」に変容しないかぎり、精神的安定は得られない。かかる観点から、ほぼ一年半にわたる、私と本人とのかかわりあいの記録をとりあげた。

II 研究の目的

情緒不安定で、問題行動の多い一生徒と教育相談を継続していく中で、その変容の過程をたどりながら本人の成長の一助となりたい。

1 対 象

現在、中学二年男子M(昭和35年1月2日生)

2 問題行動の概要

(1) 学習状況

表1に示すように成績はかなりよい。活発でよく発言するが、問題の本質からはなれてしまうこともしばしばある。学習時間はおちつきなく、30分ともたない。仕事は早いが乱雑である。学業成績にむらがある。

(2) 衝動的行動について

自分の失敗を他人から注意されることをひどくきらい。その一例であるが、自ら立候補してクラスの

* 東頸城郡松代町立松代中学校

議長になったのであるが、自分の立場を忘れ、やたらに私見を発言する。級友から注意されると議長の座からおりてつばをかけにとんでまでいく。教師から注意されるとすぐ涙ぐむが、その後反抗的な状態が翌日までつづく。

(3) その他の行動の概要

落ちつきがなく、非常に危険な行動をよくくりかえす。悪ふざけで転倒するときは普通の人より強く全身をうつことが多い。家庭で彫刻刀を使ったときなど、誤って自分の目をつき、幸い2～3日の入院で治めたが、角膜に傷をつけてしまう。理科の時間に危険な実験中隣接の生徒とちょっとした議論からつかみかかり、実験装置を転倒してしまう。中学2年になってなおかつスカートめくりまでしてかす。

(4) 基本的生活態度

整理整頓ができず、手用品は机の中におきっぱなし。他人のロッカーといわず自分のものといわず技術や美術の材料、部品、おもちゃのガラクタをちらかしておく。実技の実習後は、顔といわず、手足ワイシャツまで、墨、絵の具、塗料でよごし、まことにきたないかっこうで平気である。

(5) 趣味と問題行動の核心

おもちゃづくり、工作が大好きで、程度は幼稚なピストル、自動車から、ラジオ製作まである。趣味の病が高じて部品は自他の所有品の判別がつかなくなる。学校のテレビの部品、仲間の作品の部品からブルドーザーのヒューズまでぬいてしまっている。本人の言で「不用と思った。」もの以外には手をつけない。この傾向は小学校時代からあったようである。

3 本人の状況 ～調査、テスト等の結果から～

(1) 家庭環境

父44歳、母44歳、高3姉、高1姉、本人Mの5人家族である。出生、家族関係には特別問題はない。ただ、3人きょうだいの末っ子的ため、わがままいっばいに育っている。欲しいものは何でも買い与えられ、家庭内の仕事も、上の二人の姉がほとんど言いつけられ、本人は特別あつかいされている。母はPTA等にかかわらず出席し、本人のことを心配しているが、父は家庭訪問でとくにおねがいしても、なかなかあってくれない。水田80a、畑35a、副業に肥育牛を冬は5頭、夏10頭飼育、他に養蚕、父の出かせぎが11月から4月までの約6か月と多忙な家庭でもある。家屋は一部ずつ普請を重ねているが、仕事場と住居といっしょであるため雑然としている。

(表1) 定期テストの結果(学年偏差値)(2) 知能検査の結果

	国	社	数	理	英
1年1学期中間	39	67	51	58	66
期末	56	62	52	53	65
2学期中間	45	60	58	53	60
期末	43	54	43	55	38
3学期末	45	65	63	53	64
2年1学期中間	48	64	63	53	64
期末	57	60	75	69	59

S47・4・12実施 教研式学年別知能検査 偏差値57

(3) 学業成績(5段階評価)

国 社 数 理 音 美 保 技 英

1年 3 5 4 3 2 4 2 3 5

2年 3 5 5 4 2 3 2 2 4

S48・4・28実施 教研式診断的学力検査中H形式

偏差値 国語47 社59 数66 理57 英58

以上のように成績は中の上であるが、学習態度等に問題があるし、又仕事は早い、乱雑である。教科の成績にもむらがある。

(4) 行動、性格の記録 (第1学年次)

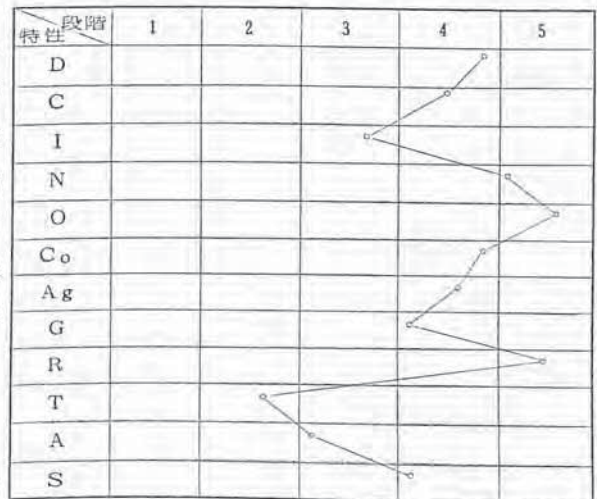
基本的生活習慣C 責任感B 寛容C 公正さB
自主性B 創意くふうB 指導性B 公共心B
根気強さB 情緒の安定C 協力性B

(5) 小学校時代の記録(抄本より)

学業成績はほぼ中学と同じであるが「学習中のおしゃべり多く、みんなの妨げとなる。」とか「学級会や児童会でよく発言するがまじめさに欠ける。」行動面では「持ち物の始末が悪く、忘れ物も多い。」などと書かれてある。情緒の安定がCと評定されてある。

(5) Y-G性格検査 S48・2・17実施

右の図1のY-G性格検査のプロフィールを見ると、D、N、O、Cの数值は、日常のMの言動と一致している。判定はB型典型(不安定不適応積極型)である。「……反社会的行動に出やすく、環境、素質面の不利な点と結合すると犯罪的傾向が強くなる。」の手引書の解説に、日常行動上類似点があり、この点留意して指導していかねばならないと考える。



(図1) Y-G性格検査プロフィール

4 指導の方針

(1) 教育相談を継続することにより、自らの力で立ちなおれるよう援助する。

(2) 学級集団をなかだちとして、本人の自己中心的な生き方の変容を期待する。

(3) 問題行動の多い中にも、なるべく追求や説教をさけ、受容的な態度で接するよう全職員一致した指導方針をとる。

5 実践記録

(1) Mとの出会い S47・4・24

入学当初より活発、なりふりかまわないところもあるが積極的である。わりと言葉もていねいである。

(2) 衝動的な行動のはじまり S47・4・24

自ら立候補して、学級の議長に当選したのであるが、この日第1限学活で学級の係決定、班編成のもんだいを話しあっていたのであるが、議事進行について、非難する発言をした副級長Maの所へとんでいきつばをかけ、けんかとなる。休憩時間に呼んで説教してしまう。Mはさかんに「なんでも、しゃべれないなんて不平等だ。Maがおれをおこらせるようなことを言うからいけない。」をくりかえす。

(3) 問題行動の発端 S 4 7・5・18

翌19日は遠足。1年生は飯ごう炊さんを計画していた。放課後、準備の買物に出かけたMを中心とする班のメンバーがK商店を通りかかったところ、家のわきにおいてあった、取替え中のカーラジオをもってきてしまった。部品はM、本体は技術クラブの友人Rと折半、K商店からの急報で発覚。出張中の私にかわって、学年主任が事情聴取、事後処理を一応はすませてもらう。

5月20日(土)MとRをよび相談、今となって反省しているが、当時の私の記録からして、ほとんど追求的、お説教的態度で接していたため、両名とも無言をつづける。わずかに「追のわきのダンボールに入っていたんだから、いらないと思った。」とくりかえすのみ。「いらないと思ったのは済んだことで仕方のないこととして、いるかいないかは自分の判断でなく、持ち主の判断である。」こと、「以後、注意すること。」を確認して、一件落着と感じがいていた。

(4) その後のMの状況 1学期終わり～2学期中ごろ

その後、かかる問題はないが、教室でさわぐ・他人のじゃまになる。小さいいたずらをかさねる。不用品をよたらに学校へもちこむ。困ったことと思い、注意やら、学習や生活のことで相談をしてはみたが、中学生活へのなれから、本性をあらわしたくらいにとらえていた。

あとで気付いたことであるが、Mの所属する技術クラブでやたらとラジオ部品がなくなっていたとのこと。悪いことに、我々教師の知らぬ間にクラブ会でこの問題がとりあげられていたことである。

そのころ、転校問題と父母の關係に悩むU子。おっちょこちょいの度かさなるM、クラブばかりに熱中し、勉強しないで母と口論ばかりしているT。あまえて、ひまさえあれば「相談、相談」と話しかける特殊学級のY。我が力の非力を悩みながらも、教育相談の必要性を、自分で少しずつ感じはじめてきていた私は、つとめて定期的に面接をかさねる努力をはじめていた。

(5) 教育相談の経過

11月7日(火) Mとの約束だったがMはこない。呼んでくるととたんに、「先生は又うたがっている。」と涙ぐんでしまった。あまり急な発言であるし、こちらも何のことやら見当がつかない。「おれに何か疑われていると思って、せつないのか。」ともちかけてみる。この日6限に音楽室のターンテーブルが紛失し、担当の方から質問されたり、日頃やたらと機械いじりをするので注意されていた。私にもこれからお説教されると思いこんでいたらしかった。「きょうは、そんな話でもないし、おれもそんな話は知らなかった。この前のつづきなんだ。」と言っても、一向に話そうとしない。時間がきたので帰す。

11月18日(土) 自発相談。クラブやラジオ工作と勉強のことについての話から、部品購入やガラクタ集めで母と口論したことなどから、「この前のとき、言おうと思っていたが、おこられると思って。」「この前って。」「あの、音楽室の……。」「ああ、ターンテーブルの。」「あれおれじゃないんだネ。」「おれも、そう思っている。」(実はうすうす事情がわかりかけていたときで、別の生徒がぬきとり、規格にあわないため、捨ててしまったらしかった。)
「おれ、いらんものは捨ててくるけど」
「すててあるものをか……ラジオ好きでやめられないし、かあちゃんにおこられるし。」
「だって勉強のじゃまにならねば、いいんだろね。」
「そりゃそうだろ。」(沈黙)
「おれほんとにわりとしない

だね。」「わりいことせんのに。」……こんな調子でつづけていくうちに、「いらんと思った。」と前置きしながら技術室や教室のテレビの部品。クラブの作品の部品、道路工事の信号灯のスイッチ、中古車両の部品、ブルドーザーのヒューズまでぬきとっていることを涙ぐみながら告白した。涙ぐんではいるが「おればかじゃねえ。」「いらねえがだ。」をつけ加える。そのほか、女子のかばんの中から、テストの答案をぬきだし、5円だすことを条件に返してやる等の行為も告白する。

以上のようなことがきっかけとなって、Mのみならず、Mの所属する技術クラブを中心に、かなり類似の行為あるいはそれ以上の行為があること、そして彼は常にクラブの中で疑われる存在におかれていることが発覚、しかも、それらの多くは、我々教師が研究会だ、文化祭だと当面の行事に追われ生徒への目が行きとどかなくなっているときにおこっていることがわかった。

11月21日(火)家庭訪問の実施。事情のあらましをつげ、今後の協力を依頼しているとき、母は泣き出し、本人をよび説教をはじめ。突如、もえかけた柴を母にむかってふりまわす。いけないとは思いつつも、とりおさえ、暴力をふるってしまう。

11月25日(土)この日、前回の反抗としてか、チョコレート、キャラメル等を学校にもってくる。多勢の生徒にくぼって、自分も食べる。クラス全員にそのことについての意見を書かせる。Mは文面上はもっとも模範的な反省文を書いてくる。

11月28日(火)約束の日なので自発来談。しかし、まだレポートが見つからない。「どうして、おればかり……。」「ここへ来るのかって。」「だっておればか……。」「ほかのもんもきているんだ……。」「みんな、なんの話してるがだね……。」「いろいろとな、みんなちがうからね。勉強とか。」「……。」「ねえちゃんとかあちゃんに、へえ、ラジオしんなといわれた。」「ラジオは面白くて、やめられない。」「はあ……。」「わりいこと、しねばいいやろね。」「うん。」「すこし反省も見えたかと思えば話がとんでもない方に行く。」「〇〇先生の勉強面白くねえ。」「面白くない……。それで……。」「先生も、説教ながくて。」「あ、おれもか、きびしいなあ。」と私自身の感度のわるさに後で反省。

以後、12月12日(火)、12月22日(金)とつづくが、前回同様、部品ぬきのようなことはしないが、今までのことを忘れたかのごとくけろっとしているが、相も変わらず、軽はずみのいたずらや失敗、みなりや身のまわりの乱雑はつづく。

1月13日(土)のことである。連休と鳥追行事の前日のため、ストーブ当番が灰とりをわすれ、帰宅してしまった。二、三の女子と私と後始末をしていると、清掃が遅くなってもどってきたMらの男子彼が中心になって「先生、ワイシャツでみじょげだ。」といって、女子もしりぞけ、自分たちで、灰とりをやったのけた。私は「おまえ、いいところあるな。」と肩をたたき、礼をいって別れた。さて、このことが班の日記にも書かれ、17日の反省会でも賞賛され、学級新聞にも掲載された。このことを契機にMの生活態度に少しずつではあるが変化が見えてきた。

2月3日(土)Mの所属する学級新聞係が放課後、居残って仕事をしている。Mは印刷係、私はたのまれた原稿を書きながら、他愛のない話をつづける。「先生、おれ、二学期成績わかったすけ、こんだがんばるがだ。」こっちも笑いながら「へえ めずらしいこというもんだ。今からか。」「こんだ、いくなったら、どうするね。」「どうしたら、いかな。」「1万円。」「わるかったら1万円、もうか

るか。」「おらもってね。」「おらも、もってね。」とうすっぺらな財布を見せる。結局、新聞係に、おごらせられてしまう。冗談まじりの話の中にも「明るさ」だけは、回復してきたことはたしかである。

学級新聞係なれど、主として女子にまかせて、さめることの多かった彼も、仲間になって、仕事をできるようになってきた。軽率行為は依然としてつづく。

(6) 進級後の言動、態度

4月 学級新聞係長になって、新聞編集に精を出す。一時、技術クラブがつぶれたので不安定となる

5月 数学の難問ときに熱をあげる。100点をとることを願いとするが、いまだに実現せず。

6月 新聞コンクールで全校第一位、奇声をあげてよろこび、握手を求めてくる。

6月28日(木)6限、美術の時間にしかられる。詳細は前述のピストルとうるしの枝の件。その日放課後、生徒会全員集会のテーマで「発言を活発にするためには」についてのクラス討議。議長「…まずお互いに話しにくいのはなぜか、クラスで出しあってみたら……。」に対し、多くの生徒が「はずかしい。」「むずかしくて。」「誰かがいってしまうと思って。」「いろいろな出しあっているとき「おれがまとめてやる。まず、プリントが下手だ、役員の説明が下手で……みんなくびちょんぎって……つぶれたって。」とまくしたててしまい、クラスの批判をかったりする。しかられたら、すぐ上記のごとなるのは、いまだになおらない。

6月29日(金)顔をむくませている。芝生のところへ行き、ねころびながら「その顔、いい男になったな。」Mは頭をかきかき「かっとなって……。」「かっとな。」「へへ……しくじっちゃった。」「しくじっただけかいな。」「I子にわりいことした。」「おれ、かっとなるくせで。」いくぶん自省的な発言もあり、一つ一つのこうした失敗問題はやや良心的に考えるようになってきているとはいえるが、他には応用はきかない全くの三日坊主、次々と失敗をくりかえしている。

7月21日(土)前日の祭の夜店で買った花火をいたずらし、ボヤを出してしまう。Mら中学生グループと小学生グループがあり、原因はいずれか不明であるが、部落の体面上、Mら上級生グループとされてしまう。その後の面談のときも、そのことに強い不満をもち、何も話してくれない。

9月25日(火)一二年バス遠足の企画委員として参加し、4クラスが8台のバスに分乗する計画である。どのクラスが分乗するか、意見が対立する中で、Mは「上級生である自分たちが分乗しよう。」と理路整然と主張し、拙せん論や一年分乗論をしりぞけ、他を納得させる。翌26日(水)の全体会でも同様の態度をとる。今までのMになかったことである。

III おわりに

教育相談の実践報告とはいえぬつたないメモ帳を紹介したものであり、又、私の場合、いまだ、カウンセリング関係とは程遠く、暴力がとびだす、お説教も、指示もある。ひにくまでもあって、むしろ、クラスメートの果たした役割の方が大であると考えている。新聞にMの善行掲載しかり、班のメンバーの協力による新聞コンクール優勝しかりである。

ただ、昨年11月以降は部品ぬきとり類する非行は全く行なわず、又、彼の暴力的な言動が少なくなっている事実のみが私のささやかな救いである。